

単元名：情報をわかりやすく伝える

授業者：岡野 浩樹

ひとめ見た瞬間から忘れられない！ 思わずまた見てしまう！ ついつい考えてしまう！

～傑作ポスターの極意を解き明かせ！～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力・判断力・表現力(学校) 主体性、コミュニケーション能力

- 1 日 時 令和6年9月25日(水) 13:30～14:20
- 2 学 年 第2学年 2組 (男子15名 女子15名 合計30名)
- 3 場 所 本館3F 美術教室
- 4 単元について

○ 単元観

本単元は、学習指導要領 「B鑑賞」の内容を受けて設定している。

1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

「B鑑賞」ア

(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

「B鑑賞」においては、小学校では、「造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げ、深めること。」とあり、中学校では、それを更に積み上げて「目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げること(第1学年)深めること(第2・3学年)」(学習指導要領)とある。
小・中学校で、一貫した共通のねらいを発達段階に応じて広げ、深めることが求められている。

本単元では日常生活の中で身近な東京メトロのマナーポスターを題材にした。同じテーマで制作された作者の異なるポスターがシリーズ化されており、これを題材に比較鑑賞する活動を設定する。この題材はそれぞれの作者のねらいや表現の工夫の違いを比較検討しやすい。

「傑作ポスターの極意を解き明かせ！」と題して、マナーの向上を目的に、個人の行動変容を促すことができるポスターに必要なデザインの極意(工夫)を生徒が主体的に考え、意見交流を通して分析し深く極意を理解することができる鑑賞の授業になることをねらいとした。

○ 生徒観

指導者自身、本学級並びに本学年を指導するのは、今年度が初めてであり、生徒実態がつかめていない部分もあるが、授業内容に対して意欲的に取り組み、理解しながら表現技術を習得しようとする姿が見られる。客観的な実態を捉えるために、本学級で行ったアンケートを表1に示す。

表1の①②③④⑤の結果から美術表現における技法の理解と習得に対して意欲的に取り組む生徒が多いことが数値に現れている。また、表1の⑥⑦⑧⑨の結果からスキルの定着と自信を持つまでには至っていない。自信を持って活用できるようになるには今後、知識の活用と演習の積み重ねが必要であることが明らかになった。

表1 生徒アンケート

アンケート項目	はい	いいえ
①作品制作は楽しかった。	88%	12%
②作品制作を自分から積極的に取り組むことができた。	100%	0%
③立体表現技法を理解することができた。	92%	8%
④制作の手順を工夫して描くことができた。	96%	4%
⑤作品制作において今後この技法を活用することができる。	92%	8%
⑥立体表現技法は自分にとって得意な技法になった。	73%	17%
⑦自分の作品は納得できる作品になった。	80%	20%
⑧作品制作で充実感・達成感を味わうことができた。	88%	12%
⑨美術の授業に満足している。	79%	21%

○ 指導観

指導に当たっては、生徒実態を踏まえ、興味関心を持つような課題設定を心がけ、学習内容が日常生活の中にあり身近な題材であることが重要であると考えた。

表1の①②③④⑤の結果から美術表現における技法の理解と習得に対して意欲的に取り組む生徒が多いことから、分かりやすく親しみやすい題材を設定することを心がける。また、生徒が主体的に分析し、お互いの考えをしっかりと交流する中でより深く分析し理解を深めることのできる「鑑賞」の授業を目指す。

表1の⑥⑦⑧⑨の結果からスキルの定着と自信を持って活用できるようになるために、まず、この単元「鑑賞」を通して優れた作品の表現技法から学ぶ時間とする。その仕掛けやからくりの工夫（極意）をしっかりと読み解き、思考・判断・分析する時間を確保したい。また、主体的にコミュニケーション能力を発揮しながら班ごとに意見交換するグループ活動の時間を充実させ、最後に全体へ発表し分析結果を共有し、最後にまとめを行う流れで活動時間を設定していきたい。

具体的には、「情報をわかりやすく伝えるポスター」に必要とされる大切なポイントを比較しながら一人一人が考えを見つけられるように、同じテーマで作者が異なる2種類の「東京メトロ マナーシリーズ」ポスターを3セット用意し、題材として取り上げる。

単元展開を次に示す。

- ①【導入】本時の学習課題を分かりやすく提示する。
- ②【個人思考】個人で2種類の「東京メトロ マナーシリーズ」ポスターを比較鑑賞しながら優れた表現のポスターデザインの極意は何かを考察させ、自分で気がついたポイントを書き出させる。
- ③【小集団思考】個人の考えをもった上で、意見をグループの班で発表し合い、優れた意見を選び班の意見としてまとめさせる。
- ④【全体思考】各班で出された意見を班の代表がクラス全体の前で発表し、それぞれの班の考えを共有し、思考を深めさせる。
- ⑤【個人思考】各班の代表が班の意見をまとめて発表する内容を聞き、各個人に重要ポイントをワークシートに書き込み、整理させる。

最後に各班から出されたポイントの中から重要だと思うポイントを個人で集め、まとめ・ふりかえりを書かせる。

この指導を通して「情報をわかりやすく伝えるポスター」の重要なポイントや具体的な工夫を個々が主体的に気づくことと合わせて集団での意見交換を踏まえ、更に深まった個人思考ができるようにする。

また、ポスターを見る側からの視点だけでなく作る側の視点を踏まえた鑑賞ができるように指導し、自分でポスターや掲示物等を制作する際にその内容を活用できるようにすることをめざす。この鑑賞において、お互いの意見を出し合うことで、個人では気がつかないポイントを共有し、お互いの意見を認め合い、更に個人の考えを深めることができる鑑賞の授業となるように取り組みたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 （自己を認識する力、 自分の人生を選択する力）	コミュニケーション能力 （表現する力）		
	レベル 1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。
	レベル 2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル 3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル 4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、（大人の力も借りながら）自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標 [B鑑賞ア] （中学校学習指導要領 平成29年告示）による

(1) 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。

【知識・技能】

(2) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

【思考・判断・表現】

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ポスター表現の目的に基づく形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。	ポスター表現の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

8 指導計画（全1時間）

教科・領域の本質的な問い

「情報をわかりやすく伝えるポスター」を制作するために必要な大切なポイントは何だろうか。

時間	学習課題 ねらい 指導内容	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
1	学習課題：ひとめ見た瞬間から忘れられない！ 思わずまた見てしまう！ ついつい考えてしまう！ ～傑作ポスターの極意を解き明かせ！～ ねらい：傑作ポスターの極意を解き明かすことができる。 感性や想像力を働かせてポスター作品を比較分析し、作者の意図や創造的な表現の極意（工夫）を自分の考えと他の人の考えを参考にしながら解き明かし、わかりやすい言葉で表現させる。 単元を貫く問いの設定により、学習の見通しをもたせる。	思	○	・ポスター作品を比較分析する。 ・自分の考えをしっかりと持つ。 ・他の人の考えをしっかりと聞く。 自分の考えと他の人の考えを参考にしながら解き明かし、わかりやすい言葉で表現する。	作者の意図や創造的な表現の極意（工夫）を自分の考えと他の人の考えを参考にしながら解き明かし、わかりやすい言葉で表現しようとしている。 〔記述分析〕
単元を貫く問い ひとめ見た瞬間から忘れられない！ 思わずまた見てしまう！ ついつい考えてしまう！ ～傑作ポスターの極意を解き明かせ！～					

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ポスター表現の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

(2) 本時の評価規準と生徒記述の例

ポスターはその目的や伝える内容を考えた上で、意図を明確にして、創造的な表現の工夫をすることが大切であることを見出し、他者の意見を分析し発見しながら考えを深め表現している。

【思考・判断・表現】

(3) 準備物

大型モニター・パソコン・ポスター画像・ワークシート・資料プリント・ホワイトボード×6

(4) 本時の流れ（1時間目／全1時間）

過程	□学習活動 教師と生徒のやりとり	指導上の留意事項（○） ・予想される生徒の反応（・）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 【評価方法】
	1 課題設定 10分		
導入	□実際の地下鉄の写真を見て、地下鉄のマナーについて課題意識を持つ。  教師：この写真を見て地下鉄の利用には、どんなマナーが必要だろう？ 生徒：人に迷惑にならないようにするマナーが必要だと思います。 □利用者の迷惑行為ランキングデータを見る。  教師：これは、東京メトロのアンケート	導入の工夫 ○利用客の多い地下鉄の様子が具体的にわかる写真をモニターで大きく映す。 ・多くの人が気持ちよく安全に利用するためにはマナーやルールが必要だろう。 ○迷惑行為ランキングデータをモニターで大きく映す。 ○地下鉄や電車を利用する人にとって問題であることを認識させる。 ○近い将来、電車通学・通勤等今後は自分たちに生活にも直接かかわってくることもイメージさせる。 導入の工夫	ICTの活用 ICTの活用

	ト結果のデータです。 生徒：へえー、なるほど。 教師：そこで今日は、東京メトロで行っている地下鉄の利用マナーポスターについて詳しく鑑賞していきます。<u>「情報をわかりやすく伝えるポスター」に必要な大切なポイントって何だろう？</u> 生徒：うーん、なんだろう？ 教師：そうだよね。今から改めて深く考える機会にしていくよ。実は、マナーポスターのシリーズで大変話題になった傑作ポスターがあります。このポスターシリーズと、それ以前のポスターと比較しながら、「ひとめ見た瞬間から忘れられない！ 思わずまた見てしまう！ ついつい考えてしまう！～傑作ポスターの極意を解き明かせ！～」と題してみんなと考えていきます。 □学習課題を設定する。 学習課題：優れたポスターの表現には、どんな工夫が見られるだろうか。 ねらい：ポスターの使用目的によって、最適な表現の工夫を発見し、理解できる。 生徒：なんか難しそう。	○地下鉄利用者の迷惑行為を正しく認識させ、問題解決の必要性を示す ・へえー、なるほど。数値があるので具体的でわかりやすい。 ○学習課題を示し、今から行う内容を全員が理解できるように説明。 ・改めて考えたことなかった。	
2 個人思考 自分の考えを書く 10分			
展開・前半	□活動の進め方を知る 教師：本時の流れを確認。 （板書）個人思考・小集団思考（班）・全体思考・個人思考（まとめ）の順で深めていきます。 □3種類①②③のワークシートを配布する。 □ヒント・キーワード集を配布する。 ①は1.2班の人 ②は3.4班の人 ③は5.6班の人が担当します。 ・一瞬で伝わる工夫は？ ・また見たくなる工夫は？ ・行動を変えたい工夫は？ ・その他の工夫は？ 単元を 貫く問い	○本時の流れを確認。 ○①②③のワークシートを全員に配布。 ○ヒント・キーワード集を全員に配布。（思考支援ツール）	3種類の比較するポスターをモニターに映し出しイメージを共有する。 ICTの 活用 ヒント・キーワードをモニターに映し出す。 ICTの 活用

	<u>それぞれの項目について、傑作ポスターと以前のポスターを比較しながらヒント・キーワード集を参考にしてポイントを見つけて極意を発見しよう。</u> 後で班のメンバーで意見交流をして全体に発表してもらいます。 それでは、今から 10 分 個人思考の時間を取ります。 それでは、始めてください。タイマー □ヒント・キーワードを使いながら思考を広げる。	○個人思考をスタート ピッ ○机間巡視で個々にアドバイスを行う。 ・ 何から考えればいいかわからなかったけどヒントがあれば、何とかできそう。 ・ キーワードからのヒントで、極意がなんとなく・・・なるほどそういうことか・・・	
3 小集団思考 班で意見を交流 10分			
展開・中半	□グループで考えの交流を行う。 教師：それでは、今から班机にします。 班長はホワイトボード一式を前にとりきましょう。 それでは、今考えた自分の考えを班のメンバーに全員が時計回りに内容をプレゼンテーションし意見交流をします。 <u>同時に、各班でポイントをまとめて大きな文字でホワイトボードに記入します。</u> それでは、始めてください。タイマー 教師：それぞれ違うポスターを担当します。違いを比較して、異なるポイントや共通しているポイント等しっかり見つけましょう。 教師：①②③のそれぞれのポイントについて、簡潔に書きましょう。	○班机の席に移動 ○ホワイトボード一式を配布 横書きで項目ごとに簡潔に！ ○書き方の手順を示し、書式をそろえる。 ○小集団思考をスタート ピッ ○机間巡視で個々にアドバイスを行う。 ・	

4 全体思考 全員で意見を交流 10分																		
展開・後半	□各班の代表6名が発表し、説明を聞く。 1班→2班→3班→4班→5班→6班 (6グループが発表)の順に発表。 教師： それでは次に各班のまとめを1班から6班まで順番にわかりやすく発表してもらいましょう。聴く姿勢でメモを取り、共通しているポイントが何かを考えながら発表を聞きましょう。 □各班の考えを比較し、共通点を見出す。 教師： 各班の発表を共通していること異なることは何かを考えながら聞きましょう。 生徒： 共通していることがわかって来たぞ！ 生徒： イラストが面白い・ユーモアがある。同じキャラクターが毎回出てくる。 生徒： 次は何か？と興味がわく。 生徒： 怒られたり、禁止されたりするのではなく、ユーモアたっぷりで考えさせられる。	○ ○発表した順番に各班のホワイトボードを黒板に張り付けていく。 ○①のワークシートは1班2班 ②のワークシートは3班4班 ③のワークシートは4班5班が担当するので、見比べやすく担当ごとに縦位置に配置する。 <table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>1班</td><td>3班</td><td>5班</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2班</td><td>4班</td><td>6班</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・しっかりと考えてデザインしているなあ。 ・見ていて楽しくなるし、それでいて、無理なく自分のいままでの行動を反省する気持ちになるなあ。	①	②	③	1班	3班	5班				2班	4班	6班				ICTの活用
	①	②	③															
1班	3班	5班																
																		
2班	4班	6班																
																		
5 個人思考 10分 まとめ																		
まとめ・終末	□教師の説明を聞き、本時のまとめを行う。 教師： それでは次に班机を元に戻します。 ④のワークシートを配る。 教師： 自分の考えと班ごとの発表をふまえ、共通している事柄を整理して、極意をまとめましょう。 □今日の授業で、大切だと思ったことを記入し、ふりかえりを記入する。 教師： また、今日の授業で学んだことをふりかえりましょう。 チャイムが鳴ったら集めます。	○傑作ポスターのシリーズをモニターに拡大表示する。 ○班机を全員前向きの席に戻す ○④のワークシートを全員に配布。 ○考えたことを整理してまとめを記入 ○授業のふりかえりを記入 記述の例 ・ポスターをデザインするときには解りやすく簡潔に、遠くからでも一瞬で伝わる工夫が必要であり、ユーモアも大切な要素であることが理解できた。	ICTの活用 作者の意図や創造的な表現の極意（工夫）を自分の考えと他の人の考えを参考にしながら解き明かし、わかりやすい言葉で表現しようとしている。 【思考・判断・表現】															

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	評価規準
B（おおむね満足できる）	ポスターの比較からその自分の考えを持った上で、班で意見交流や全体交流を通して考えを深めている。また、優れたポスターのデザインには作者の明確な表現の意図や創造的な工夫があることを発見し、自分の言葉でまとめている。
C（努力を要する）	自分の意見を持つことができない。班での意見交流や全体交流でも受け身の姿勢である。また、優れたポスターのデザインに作者の意図や創造的な工夫があることを発見することなく、自分の言葉でまとめることができていない。

(5) 板書計画

